3-P-3

抗 DFS-70 抗体を除外した間接蛍光抗体法の評価

林 伸英[1)]
今西麻樹子[1)] 生戸健一[2)] 三枝 淳[2)]

【目的】抗核抗体検査は自己免疫疾患の診断や病態の把握において重要な検査で、現在 HEp-2 細胞を核材とした間接蛍光抗体法（IF 法）が広く使用されている。2014 年に IF 法による抗核抗体検査の染色型分類国際的コンセンサス（ICAP）が提示され、通常分類の Speckled 型判定において Dense fine speckled 型（DFS 型）を個別に判定することが示された。本法（INOVA Lite HEp-2 Select:INOVA 社）は抗 DFS-70 抗体を吸収処理した後に IF 法を実施するもので、DFS 型に影響されずに染色型を判定できる。
【方法】健常人 247 名を対象とし、ELISA 法をゴールドスタンダードとして、従来の IF 法での DFS 型判定と本法を比較検討した。本法で陽性を示した例は吸収前後の画像をそれぞれ撮影し、吸収前と比較し緑色の輝度（WinROOF:三谷商事）に 10%以上の減少がみられた例を抗 DFS-70 抗体陽性と判定した。
【結果】①吸収 IF 法での抗 DFS-70 抗体、従来 IF 法での DFS 型判定および ELISA 法の抗 DFS-70 抗体出現率はそれぞれ、15.4%（38/247）、9.7%（24/247）および 10.9%（27/247）であった。②ELISA 法との一致率は従来 IF 法、吸収 IF 法、それぞれ 95.1%、94.7%であった（従来 IF 法判定不能例 2 例を除く）。③捕捉率はそれぞれ 63.2%（24/38）、65.8%（25/38）であった。④吸収 IF 法の陽性例数（陽性率）は、吸収前 42 例（17.0%）から吸収後 31 例（12.6%）と減少し、減少した 11 例のうち 10 例は ELISA 法陽性であった。
【考察】本法は ELISA 法との一致率が従来法とほぼ同等に高率であり、吸収処理により陽性率が減少したことから、DFS 型に影響されず検査できる点において有用である。ただし、抗 DFS-70 抗体の有無を判定するには、吸収前後の輝度を比較する必要がある。

1）保健科学部医療検査学科　2）神戸大学医学部附属病院検査部